



湊江中学校だより

令和2年度
第5号
9月4日(金)

教育目標 : 『よく考え 自ら学ぶ人』・『正しく判断し 実行する人』
『礼儀正しく 情操豊かな人』・『心身ともに健康な人』



湊江中HP

読書の勧め「もっと本を読みましょう！」

私事（わたくしごと）で恐縮ですが、少々、昔話にお付き合い願います。今から48年ほど前のことです。

当時、私は中学2年生。11月まで福島県いわき市という所で暮らしていましたが、両親の離婚により、私は母と姉と共に葛飾区立石で生活することになりました。

今では信じられないような貧乏暮らしで、4畳半二間の部屋、風呂は無く銭湯通い、トイレは共同というアパートで親子3人の生活が始まりました。

そんな生活の中で、中学生の私にとってとても辛かったのは、学校から帰宅した後の楽しみが極めて少ないことでした。今の時代のようにネットもケータイもパソコンもゲームも無く、しかもテレビすら1年間ほどはありませんでした。楽しみといえば、ラジオで音楽を聴くことと新聞を読むこと、そして中学生になってからはまり始めたSF小説を読むことだけでした。



しかしそんな中で感謝しているのは、この時期についた読書習慣がその後の自分自身に大きなプラスになったことです。

SF小説を読み続け、日常生活のふとした瞬間に、頭の中で月や火星はもちろんのこと銀河系を遙かに越えて旅をし、数万年先の未来までも想像していました。1年間に200冊を超える本を乱読したのは、人生でこの時期だけです。そして、そんな生活を続ける中で、なぜか（あるいは当然のこととして）私の学校の成績が上昇していきました。

本を読み続けることで「自分自身のこれが変わった」という実感は無いのですが、文章の要旨を短時間でつかむ力、物事を論理的に考える力、発想の転換力等が鍛えられたのかもしれない。

この時期ほどではありませんが、その後も私の読書習慣は（読む本の傾向は変わっても）続いています。アルコール中毒（アルコール中毒）ではなく、活字ホ
(裏面に続きます。)



リック（そんな言葉はありませんが）ではないかと思うほど本は手放せません。

そしてそのことが、私の人生を豊かにしてくれていることは間違いありませんし、もしかしたら私の能力（たいしたことはありませんが）の向上に役だっているようにも思います。

さて生徒の皆さん。皆さんはどれ位、読書をしているでしょうか。幸いにして本校の図書室は大変きれいで魅力的です。図書館支援員の田代先生が、様々な工夫をして読書環境を整えてくださっています。蔵書数も年々増えています。

ぜひ読書の楽しみを知り、豊かな人生に繋げてくれることを願っています。

東日本大震災



2011年（平成23年）3月11日。宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmを震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。地震の規模はマグニチュード9.0で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震です。最大震度は宮城県栗原市で観測された震度7で、その他にも震度6強が観測された地域が多くありました。

この地震により、場所によっては波の高さが10m以上にもなる巨大な津波が

発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害が発生。さらに地震の揺れや液状化現象、地盤沈下、ダムが決壊などにより広大な範囲で被害が広がりました。

そしてそこにさらなる衝撃がおそいました。地震から約1時間後に津波に襲われた東京電力福島第一原子力発電所で炉心融解（メルトダウン）が発生し、大量の放射性物質が漏れる重大な原子力事故となってしまったのです。

あのときの悲劇、恐怖、苦難等、とてもここには書き切れません。私もそうですが、あの3.11の瞬間とその後の出来事について、今でも昨日のことのよう思い出される人が数多くいます。

あれから9年が経ちました。現在の中学生の皆さんは、あのとき小学生にもなっていなかったことになります。

そんなことを考えていたとき、私は1冊の写真集と出会いました。石巻日日新聞による「東日本大震災 報道写真集」です。すぐに購入して校長室の前の机の上に置きました。特に生徒の皆さんに周知したわけではないのですが、時々、この写真集を手にとっている生徒の姿を見かけるようになりました。

9月1日は「防災の日」です。そして現代に生きる私たちには、東日本大震災や日本を襲った多くの悲劇を後世に伝えていく責務があると考えています。そして、地震や津波の恐ろしさを知るとともに、災害時にどのように「命を守る」行動をとるか、そのために日頃からどのような準備をするべきか、この写真集がそんなことを考えるきっかけとなってくれば幸いです。